平成２９年度　会津高等学校ＰＴＡ進路学習会

１　開催日　　平成２９年７月８日（土）

２　場　所　　会津若松ワシントンホテル

３　主　催　　福島県立会津高等学校ＰＴＡ進路対策委員会

４　対　象　　福島県立会津高等学校保護者（出席者　１年７３名、２年７５名、３年７４名　計２２２名）

５　日程及び内容

第１部　　全体会　１３：００～１５：００

１　開会のことば
２　学校長あいさつ
３　進路対策委員長あいさつ
４　ＰＴＡ会長あいさつ
５　講師紹介
６　講演　『受験生とかかわる保護者の役割』
（株）ベネッセコーポレーション　東北支社長　齋藤　輝之　氏
７　質疑応答
８　御礼のことば
９　閉会のことば

第２部　　分科会　１５：２０～１６：５０

第１分科会　『会津高校教員との座談会』
～　先生に聞こう！！受験のイロハ　～
第２分科会　『会津高校卒業生の保護者を招いてのパネルディスカッション』
～　保護者が支える受験生（心とお金）　～
第３分科会　『会津高校卒業生を招いてのパネルディスカッション』
～　親の知らない子どもの本音　～

○　全体会の講演より

1　大学合格はゴールではない。

「ひとつでも上」へ挑戦することが大切。

大学４年間のその先、社会に出て自分が幸せだと思える人生を歩むために。

子どもの変化：過去→偏差値＋１０を狙ったが、今の生徒は＋１や＋２の合格しそうな大学を狙う。

時代の変化　：時代が大きく変化する中で、進路選択や入試で問われる力も変化し、そのスピードもＵＰ。
不確実性が高まる中で、どういう状況でもしっかりと自分は活躍するという思いが重要！

2　最新の進路指導では、具体的な「職業」を目指すことよりも**生涯をかけて何に関わりたいのか、「目的」を考えることが大事。**

→職業も大学も専攻も、目的を成し遂げるための手段。将来の志を学校と一緒に育てる。

→何になりたいかよりも、どんな課題を解決したいか。→自分のこだわりになる。

＊参考＊　国際連合「持続可能な開発目標」

社会人基礎力は　①　前に踏み出す力
②　考え抜く力
③　チームで働く力←学校生活で養う。

3　変わっていく大学入試

答えがない問題が出題され始めている。

社会問題を取り上げて、家庭内でも意見を言い合う訓練が必要。

「語れる力」を１、２年次からつけることが大切。

4　高校時代に鍛えたいのは、学力の３要素

次期学習指導要領で育成を目指す資質。能力の３つの柱

○　学びに向かう力・人間性（どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）

○　知識・技能（何を理解しているか、何ができるか）

○　思考力・判断力・表現力等（理解していること、できることをどう使うか）

5　親御さんの手助けが必要なこと

◎　生活習慣を支える。
土日や長期休みの朝ごはんがポイント。

◎　高校生は事務処理が苦手なので手伝ってあげてほしい。家事は少しずつやらせる。
ちょっと先のことですが、入試が終わったら入学準備などから一気に突き放す。

◎　高校生は情報検索力があるようであまりないので手伝って上げてほしい。
新聞からのピックアップ、ＮＨＫスペシャルなど教養番組の録画などは手伝える。

◎　将来の見本になりそうな親御さんの友人に仕事の話をしてもらう。

◎　スマホの家庭内でのルール作りは必要。

◎　経済的な準備は計画的に。

＊お勧め　会社四季報「業界地図」　　東洋経済「業界地図」
「文芸春秋」２０１７年の論点１００　　ＮＨＫ　クローズアップ現代

第１分科会　「会津高校教員との座談会」　～先生に聞こう！進路のイロハ～

Q　大学受験の仕組みについて教えてほしい。

《大学入試センター試験》

すべての国公立大学と８割以上の私立大学で利用されている受験の第一関門。

国公立大では原則として１月に行われるセンター試験と、２～３月に大学ごとに行われる２次試験の合計点で

合否が決まる。２次試験は「前期日程」「後期日程」と、一部の公立大のみで実施される「中期日程」との組み合わせで、場合によっては最大３回の受験が可能。ただし、前期日程で合格し、入学手続きをするとその他の日程で受験しても合格できない仕組みになっているため、第１志望を前期日程で受験するのが基本。一部大学では独自にＡＢＣ日程を設けているところもあるが、受験の回数が増え、日程が立て込むと、心身への負担がかなり生じる。すべての日程を受ける生徒はいない。前期、後期日程を中心に考えるのがお勧め。

＜入試のスケジュール＞

9 月下旬から 10 月上旬：センター試験出願
1 月中旬　　：センター試験受験

1 月下旬～2 月上旬　：個別学力検査（通称：2 次試験）出願（前期・後期とも同時に）
2 月下旬　　：前期日程試験
3 月上旬　　：・前期日程合格発表　　・　中期日程試験
3 月中旬　　：・入学手続き締め切り　　・　後期日程試験
3 月下旬　　：　　合格発表・入学手続き締め切り

Q　センター試験の仕組みが変わったと聞くが、どのように変わったのか？

《理科の出題科目選択》

以前は理科を１科目で受験するのか２科目で受験するのか選択できたが、現在は４パターンに変更となり文系・理系、国立・公立など志望によってパターンがほぼ決まる。特に、国立理系はセンター試験理科専門２科目をそろえての学習で負担が重くなってきている。基礎のついていない科目は、範囲が広く難易度も雲泥の差。浪人生は時間をかけた分、２次試験での力があり挽回可能だが、現役生はセンター試験で勝負。勉強量も多くなり、理系は地獄を見るような苦しみ。わからないことは、その都度遠慮なくクラス担任に聞いてほしい。

A：基礎科目 2 科目受験	「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」の 4 科目から 2 科目を選択
B：専門科目 1 科目受験	「物理」「化学」「生物」「地学」の 4 科目から 1 科目を選択
C：基礎 2 科目+ ：専門 1 科目受験	「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」の 4 科目から 2 科目、 並びに「物理」「化学」「生物」「地学」の 4 科目から 1 科目を選択
D：専門 2 科目受験	「物理」「化学」「生物」「地学」の 4 科目から２科目を選択

Q　私立大学入試について

《入試の多様化》

私立大学の受験は多種多様。個別のケースに応じて調べ、いろいろな選択が可能。一般入試は３科目が基本だが、配点は大学・学部・学科でさまざま。第１志望、滑り止め、ランキングなどについてインターネット等を活用して調べるとよい。

国私併願の場合、早めに受験計画を作成することが重要。受験日程、宿泊先、移動、学費、入学金など保護者も大変。スケジュール作成には保護者も関わらなければならない。志望先はある程度精査して受験する。焦っていっぱい受けては大変。早めの意識を持って動いて損はない。時間のかかる作業なので焦らずゆったりと１、２年のうちに子どもに自分で調べさせ、３年の夏休みあたりには、受験計画表を作っておくとよい。

Q　進路決定について

《進路は未知数》

大人の私たちでも、何万とある職業のうち知っている職業はごく一部でしかない。高校から目標を持ってずっと一貫してやり続けて夢をかなえた子もいれば、紆余曲折を経てやがて希望の職業にたどり着くこともある。今の子どもたちがどのような仕事に就くことが良いのかは、わからなくて、迷って当たり前。それが楽しみでもあるのではないか。　大学は本来、資格を取ることが目的の場所ではない。興味や関心のあることを、ゆっくり時間をかけて学ぶ場所。いろいろな人との出会い、語り合うことで人間力、総合力を身につけるところでもある。高校までの自分にしっかりといろんな意味の肉づけができ、大きくなれば、それが大学生活の意義になるのではないか。文理選択後１年生いっぱいをかけてゆっくり分野を絞り込めばいいし、次に二年生の最後までに選ぶ大学を絞り込めればよい。

Q　塾は必要か

《見極めが大事》

塾が必要かどうかは、その子による。塾で教えてもらって、夜遅くまで塾の宿題をし、授業中寝ていては本末転倒。基本はやっぱり学校の授業。しっかり受けて基礎を身につけていればセンター試験の点は取れる。国公立に入るためには特定の教科だけできてもダメ。５教科を全部そろえるには大変なので、授業を本気で聴いて、復習をまめにすること。わからないことはそのままにせず、地道に取り組むことが必要。地道な取り組みだから、これが凄く辛いが、高校では集団の力で引っ張られる。クラス担任は、「勉強やれ、勉強やれ！」ではなく、生活指導とクラスづくりを大切にしている。集団の力を借りて良い方向に進めていきたい。そういったことの後押しを、ご家庭でもやってほしい。うまくいかなかったときには、手を差し伸べてあげれば不安が挑戦する勇気に変わって伸びていく。点数を取るための勉強ばかりでは基礎学力が付かず、優秀な子も最後に失速してしまう。教わるだけでなく、自分で試行錯誤して、考えることで力が付く。

Q　子どもへの進路の関わり方は？親のすべきことは？

《努力》

努力すべきは我々大人。子どもにこうして欲しい、こうすべきだという思いはあると思うが、過去のアンケートから子どもが親にして欲しかったことは毎年決まって同じ。

「何も言わずに、黙って見守っていて欲しかった。」これに尽きる。

親がすべきことは、言いたいことを言わないこと。だから、どうせなら、おいしく楽しくご飯を食べたほうがよい。子どもの食べたい物を作ってあげた方が、よっぽどやる気が出せる。だから、**子どもに努力させるのではなく、我々大人が努力すべき**。

第２分科会　「会津高校卒業生保護者を招いてのパネルディスカッション」
～　保護者が支える受験生（心とお金）～

1　パネラー　野中　美佐江　さん
　　長谷川　裕子　さん
　　湯田　靖　さん

2　質問から（回答は順不同）

Q　お子さんの学習時間、部活との両立、塾に行っていたか教えて下さい。

Ａ１　部活と両立していたので、朝の５時～７時に勉強していたこともあった。引退後の秋からは２時間～５時間程度学習していたようだ。放課後は図書館を利用し、３時間程度集中していたようだ。

Ａ２　家ではなく、図書館と塾を利用して勉強していた。

Ａ３　部活動で帰りが遅く、３年の１０月末まで部活優先。家庭では８時半から勉強。で１１時過ぎには寝ていた。塾は高１の６月から。

Q　第１志望のほかに、滑り止めを受けましたか？

Ａ１　私大には行く気がなかったが、ＷＥＢで出願し、一番人気の大学を受けた。

Ａ２　センター試験を利用して私大を受けたが、倍率３８倍だった。

Ａ３　国公立のみ志望だったので受けなかった。推薦入試を受験。国公立でも推薦入試がある。リスクはあるが、早めに情報をキャッチすることが大切。

Q　受験の時、保護者は付いて行きましたか？宿泊は？

Ａ１　同伴した。ホテルは入試日程が分かり次第すぐに予約した。磐越西線は雪などの影響で電車が止まりやすいので、前泊・前々泊も考えた方が良い。ホテルは電車が止まっても歩けるように、大学からの距離を考えて予約した。

Ａ２　ウィークリーマンションを２週間借りた。費用はホテルと同じくらい。キッチン付きで、お風呂も追い焚き機能付き。ＪＲ線は雪で止まることもあるため、地下鉄ですぐに移動できるところがお勧め。

Ａ３　２人で駅前に２泊した。歩いて行ける方が良い。

Q　受験会場の下見はしたか？

Ａ１　前日に会場までの時間を計ってみた。

Ａ２　オープンキャンパスに行った。混雑時の乗り換えのため、乗換アプリを利用した。乗降番線などの細かな情報が必要。

Ａ３　オープンキャンパスで分かったつもりだったが、駅を降りてから道を間違えた。一度来たから大丈夫と思わず、前日などに下見をした方が良い。

Q　引越しなどに要した費用は？概算でいいので教えてほしい。

Ａ１　国公立大受験料：前期１７，０００円、後期１７，０００円。
私立大受験料：ＷＥＢ出願で１８，０００円。交通費なし。
宿泊食費①　２泊で８３，１００円。
宿泊食費②　１泊で２１，６００円＋食費。
入学金・諸経費：合計で３５３，０００円。

授業料：前期９２０，０００円、後期６１０，０００円
不動産関係：家賃、家具等含めて４２９，０００円
その他、私大入学金、教科書代、引越し宅急便代など。
６月末までに１，３１２，４００円。

Ａ２　仙台では１，２００，０００円くらい。入学金は普段から積立しておく必要がある。

Ａ３　受験宿泊料：２人で１５泊分１９０，０００円。
滑り止め大学入学金：１，２００，０００円程度。１ヶ月後に戻ってきた。
引っ越し用レンタカー：３０，０００円。

Ｑ　受験を通して気づいたこと。

Ａ１　子どもはもちろん家族もインフルエンザにかからないように普段使わない神経を使った。もし家族がかかったら子どもとホテルに泊まることを約束していた。

Ａ２　同じ大学を複数回受験して合格した。卒業式に進路が決まっていない生徒はたくさんいる。あきらめなくてよかった。あきらめないことが何よりも大切。

Ａ３　健康管理が大切。ホテル宿泊では乾燥しないように余計な神経を使った。子どもにはあきらめない気持ちを持たせることが必要。結果を恐れず、親子ともどもコツコツと努力することが受験だった。

第３分科会　　会津高校卒業生を招いてのパネルディスカッション
～　親の知らない子どもの本音　～

1　パネラー

長谷川　珠子　さん　　芸術学部
五十嵐　里咲　さん　　看護学部
橋本　一輝　さん　　工学部
牧野　和輝　さん　　工学部

2　質問（回答は順不同）

Ｑ　保護者に言われてうれしかったこと。嫌だったこと。

Ａ１　母は私の夢を聞いた上で、第１志望校をとてもよい大学だと勧めてくれた。そのことが苦しい受験期に自分を支えてくれた。自分の考えと親の考えが食い違うことが一番のストレスになると思う。私立専願だったが、両親が認めて賛成してくれていたことがよかった。

Ａ２　両親は進路にあまり干渉せず、生きたいところに理解を示してくれていた。第１志望校を受験したが不合格となったとき、母は「じゃ、次頑張ろうね」と励ましてくれた。子どもが辛いときは励ましてほしい。それでも落ち込んでいるときは何も言わずに見守ってほしい。
合格後、大学でかかるお金について話しているのを聞いてしまった。多額のお金がかかることは分かっていて、自分も気にしていたが、頑張って合格したのに・・と思ってしまった。露骨にお金の話をされたのはとても嫌だった。

Ａ３　行きたいところに行けと言われたことが一番うれしかった。安心して受験期を迎えることが出来た。また、学校や塾へ迎えに来てくれたときに車に乗ると、「お疲れ様でした」と言ってくれて安心し、リラックスして夜眠ることが出来た。
頑張らなければならないと分かっているときに「頑張れ」と言われると逆に緊張してしまう。両親にはあまり言われなかったからありがたかった。

Ａ４　両親は自分の進路に口出しをしなかったが、「頑張れ」と言われたのは、自分はうれしかった。模試結果などがふるわず、第１志望校を変更しようと思ったとき、「あなたが行きたいところならいいよ」と言われた。軽い感じで言われたが、気持ちがこもっている気がして一番うれしかった。

Ｑ　オープンキャンパスには行きましたか？

Ａ１　オープンキャンパスに行って具体的な学部や分野を知り、興味を持ってその分野を目指すようになったので、行ってよかった。

Ａ２　１年生の時に新潟大学と東北大学に行った。当時は志望学部が違っていたため、結果的に第１志望となった学部の関連施設は全く見ていない。オープンキャンパスは様々な学部学科で行われているから、一つに絞らずにいろいろなところを見ておいた方がよいと思う。

Ａ３　１年・２年と学校の行事の一環で行った。比較的時間に余裕がある１、２年生のうちに大学の雰囲気を確かめておくのはよいと思う。面接で聞かれることもある。ただし、絶対に行かなければならないとは思わない。行かなくても合格は出来る。

Ａ４　絶対に行った方がよい。模擬授業を受けて受験要項に書かれていないような入試の説明を詳しく聞くことが出来る。大学や先生の雰囲気は行ってみないと分からない。

Ｑ　志望校を決めた経緯と重視したことは？

Ａ１　中学の時から第１志望は私立大に決まっていたが、周りが国公立大を目指していたので迷うこともあった。１年生の時から入試の内容を調べ上げ、先生に相談して対策した。実際の受験では不合格となった後で、別な受験方式で再チャレンジした。諦めなくてよかった。

Ａ２　２年生の時にセミナーに参加して医師不足を知った。国公立大学でも推薦があるので医学部を目指している人には勧めたい。ただ、推薦で不合格となることもある。
医学部は多浪も多く非常に厳しい受験となる。自分はどうしても医療の道に進みたかったので看護学部に出願した。

Ａ３　高校入学時は大学に関する知識がほとんどなかったため、志望校も書けなかった。目標は高いところにしようと思い、偏差値の高さで大学・学部を決めた。２年後半までそのつもりだったが、本当に自分はここに行きたいのかと考え、３年の春になってインターネット等で調べ始めた。そしてたどり着いた大学を目指すなら自分はがんばれると思い報告したところ、賛成してもらい志望学科を変えた。塾のカリキュラムも厳しくなり、夜１０時まで塾で勉強をした。１２月くらいは心がしんどくて辛かった。センター直前模試は成績が悪く気分が落ち込んだが、本番はそれまででいちばんよかったので、２次試験はおおらかな気持ちで臨むことが出来た。

Ａ４　高校入学当時、大学受験はまだ先だと思っていた。本格的に勉強を始めたのは２年生の２月からだが、もっと早くやっていればよかった。受験日以降とても体調が悪くなったのは、もっと勉強すればよかったという不安から来ていたのかもしれない。